

上棟時の行事体験提供

東海建設 建築現場で餅まき

【室蘭発】東海建設㈱(室蘭、中田孔幸社長)は11月15日、現在進めている社会福祉施設「コミュニティプラザはーもにー」新築工事で、施設利用者らの参加を得て、建物上棟時の餅まきを開催した。写真。建築工事に関わる古くからの行事の一端を体験してもらいたいと開催したもの。これからの工事の安全と完成を祈願するとともに、参加者はまかれた餅を拾い集め、最近では珍しくなった行事

を体感し歓声を上げた。

新築する「コミュニティプラザはーもにー」はS造平屋1569・34平方メートル規模。建設地は室蘭市俣恋南町2丁目52-5内で旧室蘭朝陽小学校グラウンド跡に位置する。発注者は社会福祉法人室蘭三泉学園(菅野登一郎理事長)。設計は(株)はんぎき建築事務所(半崎敏裕社長)が担当した。近隣に分散している施設の老朽化・狭あい化に伴って、日中活動センター、共

同生活援助事業所、本部署局など四つの施設を集約するとともに、地域と結び付いた事業展開を考え、新たに、地域の人が利用できるレストランやカフェ、イベントホールを設ける。来年3月末の竣工、4月のオープンを目指している。同社は昨年、60周年の節目の年を迎えたことから、地域への恩返しを兼ねて児童教育施設等2棟の工事で上棟時の餅まきを開催したところ、参加者から好評を博した。

今回、発注者の室蘭三泉学園に提案したところ快諾を得たため、施設利用者も参加した餅まきの開催を決めた。

菅野理事長、伊藤裕司総台施設長、半崎社長、東海建設の菊地健一専務取締役が登壇。参加者は四つのグループに分かれ、4回餅まきを行った。餅をまくと、参加者は歓声を上げて餅を拾い集めた。



菊地専務は「日本の伝統行事を体験してもらえればと考えた。喜んでもらい、とても良かった。しっかりとした現場で、良いものを造るという気持ちを新たにしたい企画になった」と話した。